

ジャパン・コンテンツに注目！

弁護士知財ネット元理事長

弁護士 小松 陽一郎¹

1 行ってみよう、コンテンツ溢れる大阪・関西万博！

(1) 「いのち」がメインテーマ

「大阪・関西万博」のメインテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン (Designing Future Society for Our Lives)」、サブテーマは「いのちを救う (Saving Lives)」、「いのちに力を与える (Empowering Lives)」、「いのちをつなぐ (Connecting Lives)」として、人々がお互いにささえ合おうとする漢字の「人」、そして「いのち」に焦点が当てられています。

最高裁昭和23年(1948年)3月12日大法廷判決が説示した「生命は尊貴である。一人の生命は、全地球よりも重い。」の名言が連想されます。

知財に直接関係する科学技術の発展の未来を見ることにも大いに興味がありますが、「いのち」との関係性という視点を常に意識して体験できる絶好の場だと言えます。

例えば、パビリオンの日本館は、「いのちと、いのちの、あいだに」をコンセプトにして、この世界が無数の「小さな循環」によって成り立っていることを紹介していますが、それらの展示品の中で、とっても印象深かったものに「CO₂ (二酸化炭素) を『食べる』水素酸化細菌から取り出した生分解性プラスチックで作られた器」(下記写真)があります。



(CO₂を原料として作られた生分解性プラスチックの器)

1 弁護士知財ネット(会員数約1200名)常務理事、2014年～2018年4月まで理事長。日弁連知的財産センター幹事

この分解性プラスチックは、植物の光合成によるCO₂の吸収ではなく、通常のプラスチックと異なり微生物などの生物の作用により分解する性質、つまり海に流出しても分解される性質を有しており、微生物によって生み出されたものが分解され再び自然へ還るという「循環」（カーボンリサイクル）の1つの象徴であり、しかもその過程で「温室効果ガス」であるCO₂を削減するという点がとても素晴らしいと感じました。深海にもプラスチックゴミが散乱している様子や魚の体内からプラスチックゴミが出てくる現実への特効薬になればと期待しています。微生物の活動で生分解性プラスチックが分解されていくことによって茶碗の周囲の模様が違ってゆく過程が展示されていましたが、その様子を動く意匠で保護されないだろうか、無理だろうな、なんて想像しながらじいっと見入っていました。

(2) 参加国・地域数は2位

ご存じのように、会場には158カ国・地域が参加しており（参加国数ランキングでは、2010年の上海国際博覧会に次いで2位）、膨大なコンテンツが集合していますので、知らない国の文化や先端技術・知的財産等に短期間で出会える希有な機会です。どうも日本のメディアからは、ネガティブで気配りしないコメントが目につきますが、海外からは、日本社会は自国の催しをどうしてポジティブに捉えようとししないのか不思議な国だ、という辛辣な声が聞こえてきますし、毎日のようにナショナルデーがありたくさんの国・地域が精一杯の展示・イベント等に心を砕いていることを思うと、残念でなりません…。

(3) ジャパン・コンテンツに注目

私は5月10日（土）に初めて万博を訪れましたが、今回の報告は、このうち、ジャパン・コンテンツ²の伝統的な演劇、文芸等に焦点をあててご紹介します。もっとも、その他の展示等についても重複しない範囲で少し触れます。

2 ウォーミングアップ：明治維新前から万博へ参加してきた日本

(1) 明治維新より前の1867年から万博に参加

万国博覧会は今から174年前のロンドン万博（1851年開催）からスタートし、日本は1867年のパリ万博（坂本龍馬暗殺の年。過去7回開催されたパリ万博のうちの2回目）に初出品したようです（外務省のWEBから）。明治維新は1868年ですから、大政奉還により江戸時代の終焉を迎えたこの1867年（慶応3年）はどのようなコンテンツで参加したのだろうかと思惟するだけでも興味が出てきます。鎖国状態を続けてきた江戸時代には世界と伍する独自の科学技術の発展があったわけではないので、パリ万博でなにを展示すればよいのか当時の関係者（渋沢栄一もその一人らしい）は相当悩んだことでしょう。

2 弁護士知財ネットには、ジャパンコンテンツチームがあり、例えば、【知財ぶりずむ】2016年7月号には「伝統芸能歌舞伎の海外展開に対する考察」、同2016年12月号には「サザエさん生誕70年 国民的長寿コンテンツの秘密に迫る」、同2018年10月号では「「ジャポニスム 2018：響きあう魂」訪問の概要報告」、同2020年2月号では「文化的表現の多様性の保護及び促進に関する条約」、同2024年10月号には、（先月号で紹介のあった）大阪・関西万博に関連した中山信弘東京大学名誉教授「万博と工業所有権」の論考等がアップされています。また、【Law & Technology】2017年1月号では「文楽・人間国宝竹本住太夫師匠に聞く」というインタビュー記事も掲載されており、後出の豊竹藤太夫（当時は竹本文字久太夫）さんも写真に出ておられます。

なお、全くの余談ですが、リンカーンは、1849年に「浅瀬で浮揚する船」の米国特許を取得しており、その特許明細書では、自分の発明は実施例に限定されないという実施例不拘束の主張、さらには今日の米国の均等論成立要件である、実質的に同一の機能・手段・結果（FWRテスト）と一部共通する「実質的に同じ手段で同じ目的を達成している限り」との表現までしていることに驚かされます³。そんな時代もありました。

（2）日本美術の展示がメインだったらしい

先日のテレビ番組によれば、このパリ万博では、どうも埴輪・銅鐸・銅鏡・仏像・刀剣・甲冑・浮世絵などの日本美術を中心に展示しグランプリも獲得して、世界にこの分野における日本の輝かしい古典芸術・伝統芸術等をアピールできたようです⁴。今日のジャパン・コンテンツ（ジャポニズム）に対する対外的自信の源流の1つとも位置づけられ、今後もこの文化が「ミyakumiyak」⁵と受け継がれてゆくことが期待されます。

（3）1970年大阪万博とジャパン・コンテンツ

なお、1970年大阪万博では、会場内で『万国博覧会美術展』が開催されいろいろな国宝なども展示されていたそうですが、今回は万博会場内に国宝の展示はないようです。もしそうなら少し残念なことではありますが、各国パビリオンを含めていろいろとレアなコンテンツを探索・発見できる楽しみもあります。

また、会場外ではありますが、現在、奈良国立博物館の特別展「超 国宝一祈りのかがやき―」（国宝112件〔1件は予定〕、重要文化財16件〔指定予定も含む〕）、京都国立博物館の特別展「日本、美のつば―異文化交流の軌跡―」（国宝19件、重要文化財53件）（いずれも4月19日（土）～6月15日（日））、大阪・関西万博開催記念及び大阪市立美術館リニューアル記念特別展「日本国宝展」（国宝135件）（4月26日（土）～6月15日（日））というように大阪・関西万博の開催に合わせて多くの国宝等が関西で展示されています。

3 発明の内容等に興味のある方は <https://www.komatsulaw.com/wp/?p=214> を参照。但し、万博で紹介されたという話は聞きません。

4 5回目のパリ万博（1900年）で日本の事務総長を務めた美術商の林忠正は、会期中無償で活動し日本文化の紹介に大きな寄与をしたという先人の逸話もテレビ等で紹介されています。



(大阪・関西万博開催記念及び大阪市立美術館リニューアル記念特別展「日本国宝展」のパンフレット)

さらに、関西の文化に注目すれば、文化庁は、日本・中国・韓国の3カ国において文化芸術による発展を目指す都市「東アジア文化都市」を選定しており、関西では、京都市・奈良市が選定されています（大阪はまもなく？）。関西は間違いなく自慢できる文化の宝庫です。

3 開幕1か月の状況とアクセス関係の情報

(1) 来場者数300万人、満足度8割

ところで、開催からほぼ1か月の5月12日（月）には来場者（関係者を含む）が300万人を突破したと報道されました。来場者に関係者を含めることにいろいろな意見もありますが、大規模イベントではそのように発表するのが一般的な慣行だと言われています。また、同日に発表されたアンケート結果の情報では、訪問の「満足度」について、約8割が満足、84%が再訪の意向を示した、とのことでした。

(2) 東ゲートと西ゲートへのアクセス

東ゲートは、地下鉄中央線の夢洲（ゆめしま）駅下車すぐ、西ゲートは交通手段としてタクシーやシャトルバス等を利用した場合とされています。私はイベント付きの東ゲート専用チケットを持っていたので西ゲートへの変更はできなかったのですが、一般のチケットでは基本的にはネットで簡単に変更できます。新大阪駅からのタクシー利用なら専用道路ができており通常なら約40分程度か。なお、万博HPでは「今後4週間の会場混雑予想と来場予約枠の空き状況」等がアップされており参考となります。夜遅くまで開かれているので入場時間をずらすのも一方法でしょう。なお、チケット購入もパビリオン予約もなしの「手ぶら」でチャレンジして入場等ができた記者の記事が出ていますが、コンビニや旅行代理店で引換券を購入する手段もあるようですので、ご参考までに。

4 会場全体についての印象

(1) 感動的な開会イベント

開催前はテレビで会場の様子を見たり、1970年大阪万博の特集を見たりしましたが、開会式で圧巻だったのは、なんといってもバーンスタインや小澤征爾に師事し万博のアンバサダーを務める著名な指揮者佐渡裕指揮によるベートーヴェン「第九」の大合唱でした。大屋根リングやウォータープラザに1万人が集い、指揮者・オーケストラと合唱団員の距離が最大で約230メートル、合唱団員同士では最大約500メートルも離れていたようですが、その音声等のずれを先端技術で修正したということでした。その最新技術は公表されているようですが（「アイオン構想」。政府もこの開発プロジェクトに出資）、実際に体感してみたいものですね⁵。多くの発明等が生まれているのでしょうね。開催日は雨模様でしたが、演奏スタート時には雨がやんだのも感動的でした。

(2) 圧巻の大屋根リングと「貫接合」

別の報告でも出てきますが、とにかく大屋根リングには圧倒されます。内径は約615メートル、外径は約675メートル、内側の高さは約12メートル、外側は約20メートル、円周約2kmという2層構造の巨大な木造建築物で、「世界最大の木造建築物」としてギネス世界記録に認定されました。2層構造のリングの間は芝生だろうと思っていましたが、今は素敵な花が咲き誇っておりとても癒やされます。使用木材の約7割は国産です（誤情報に注意）。



（2層構造のリング間の斜面に咲いている色とりどりの花）

5 NTTによる「大阪・関西万博開幕、「1万人の第九 EXPO2025」開催のご報告」

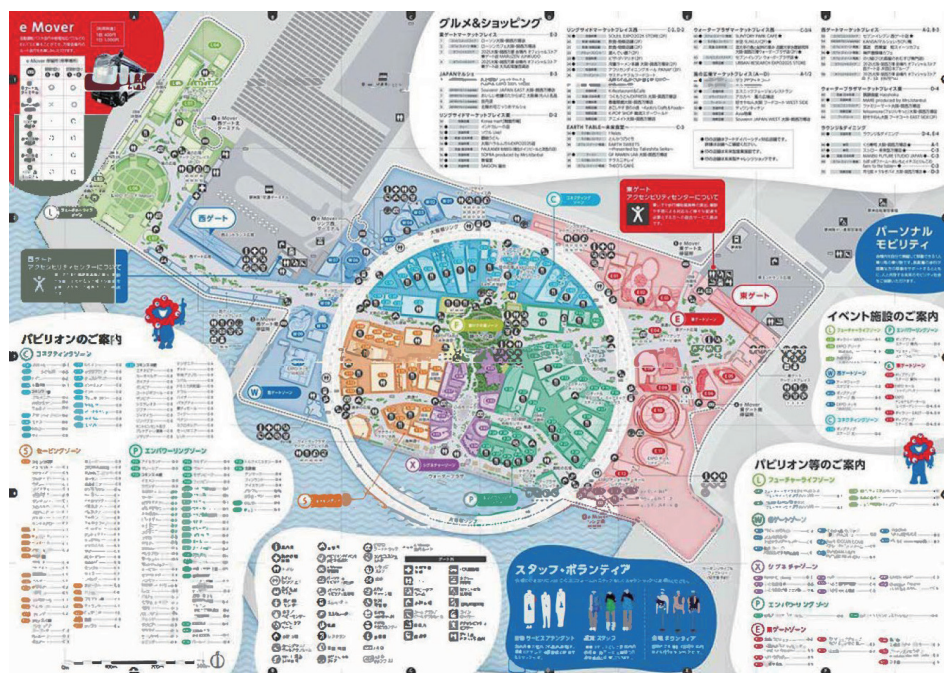
<https://group.ntt.jp/expo2025/topics/250414.html>

この大屋根リングは、大手ゼネコン3社が中心となって、伝統的な「貫接合（ぬきせつごう）」の技法と現代の工法を融合させて建築されたそうです。株式会社大林組の関係者から提供を受けた情報（写真も含む）では、「一般的な貫接合」で有名な清水の舞台は130本以上のケヤキの柱で支えられており一切の釘や現代の建築資材を使っていないそうですが、大屋根リングは当然のことながら現在の建築基準法に適合したものとなっているとのこと。特に大手ゼネコンがお互いの「貫」工法の手内（ノウハウ）を見せ合って開発したらしいですが、そのことは知的財産の視点から見てもとても誇りに思います。



（左が清水の舞台の「貫接合」、右が大屋根リングの「貫接合」の例）

この大屋根リングの内部には外国のパビリオンが並び、日本のパビリオン等はリング外という奥ゆかしさ（笑）。下の図は公式マップですが、全体の雰囲気が分かります（コピー持参は必須。非公式マップもネットから入手可能であり、パビリオン毎に入場制限しているか自由入場できるかもメモされておりとても便利）。



5 シャインハットの大舞台と関西発祥の人形浄瑠璃・能・歌舞伎等の公演

(1) シャインハット

5月10日（土）に訪れた、日本館の隣に位置するシャインハット（EXPO ホールの愛称：上の図の円形のすぐ右）は、高さ20メートルの白い円錐状の建物の上に、直径約70メートルの金色の屋根が載っているデザインであり、大阪・関西万博の開会式の会場ともなりました。内装は白一色の布等で統一され約1,900席の階段状の客席と直径18メートルの円形ステージで構成されています（毎日のように行われるイベントは公式イベントページで確認できます）。建物の外壁面には世界中のクリエイターから募ったプロジェクションマッピングの作品が上映され、特設ページで見ただけでも各作品は圧倒的な美しさです。

ハットを被った自分を撮影しようと試みましたが、うまくゆかず（笑）。



（シャインハットの外壁面を使ったプロジェクションマッピングの一例）

(2) 開会式での連獅子等

このシャインハットでは、既に開会式で若手歌舞伎人気俳優の尾上菊之助、中村隼人、中村蒼玉が連獅子を舞いました。シンメトリーの美しさがとても舞台を引き立てていた様子をNETで確認することができます。

また、4月15日（火）には大阪ウェルカムレセプションで片岡愛之助さんが歌舞伎俳優の衣装で登場⁶しており、歌舞伎を大きくアピールしています。

このように、歌舞伎を始め、日本の伝統芸能が国際的な舞台でも取り上げられることはとても素晴らしいです。今年のMLBの開幕戦が東京ドームで行われましたが、そこでも日本の古典音楽と現代音楽等のコラボ演奏等がなされ、最近ではNHK番組「芸能きわみ堂」で文楽人形×アルゼンチンタンゴの絶妙な組み合わせ等の紹介がなされました。表現形式や時代が異なっても芸術文化は容易に融合し合えるものだの実感でき、これら著作権隣接権が大きく羽ばたいていることを非常に頼もしく思っています。

(3) 「和のこころと地球の未来」のオープニングに芸舞妓が登壇

開幕10日後の4月23日（水）には、シャインハットで「EXPO KYOTO MEETING ～和のこころと地球の未来」というイベントが行われましたが、その第一部オープニングアクトとして京都の花街のひとつである宮川町の芸舞妓が多数登場し日本の伝統美をアピールしました。

6 本誌5月号「大阪・関西万博（EXPO2025）開幕！」で紹介されています。



(「EXPO KYOTO MEETING ～和のこころと地球の未来」オープニングアクトの様子)

京都には、古くから伝統技芸を守る街として、上七軒・祇園甲部・祇園東・先斗町・宮川町の五花街があります。宮川町の由来は、八坂神社の祇園祭の際に神輿洗いが行われる鴨川の四条大橋下流を「宮川」と呼んでいたことにあるとも紹介されており、また歌舞伎発祥の地とも言われています。聞き及ぶところによれば、宮川町の芸舞妓の踊りは若柳流と榎茂都（うめもと）流の系統のようですが、榎茂都流については、歌舞伎役者の六代目片岡愛之助さんが四世家元を継承して三代目榎茂都扇性を襲名しています。

(4) 関西発祥の人形浄瑠璃・能・歌舞伎等の公演（人間国宝3人登場）

5月10日（土）に行われた「上方伝統芸能公演」（下記パンフレット）の様子を紹介します。2時間10分の公演で人間国宝がなんと3人も出られたというすごい内容でした。一気に人形浄瑠璃、能楽、歌舞伎・日本舞踊を体験できるまたとない機会です⁷、さすがに事前予約は満杯でした。

この人形浄瑠璃、能楽、歌舞伎は、いずれもユネスコの世界無形文化遺産に登録されており、まさにジャパンコンテンツの代表例です。



少し知ったかぶりの知識を披露しますと、人形浄瑠璃は、竹本義太夫が大阪の道頓堀で浄瑠璃と人形劇を合わせた文楽を始めたことに由来すると言われおり、近松門左衛門の曾根崎心中は超有名ですね。

7 なお、これも余談ですが、複数の伝統文化を観劇できるものとして、京都祇園甲部歌舞練場では、「日本伝統文化入門公演～ギオンコーナー～」があり、京舞・茶道・華道・箏曲・舞楽・狂言・文楽/能を纏めて1時間で観劇でき、インバウンド等にもとても人気があります（グッズも良い）。

弁護士知財ネットとして取材させて頂いた文化勲章受章者・人間国宝・芸術院会員の竹本住太夫師匠（私が卒業した大阪市北区の西天満小学校の先輩）は語り部であり、クライマックスとなる場面（切場）を担当する「切場語り」として芸を極めておられました（注2を参照）。心情を語り、雰囲気を読み、人物を読み、掛け合いで語る、といわれており、語り部は男性・女性・若者・年寄り等の何役も一人で務めることとなります。また、足遣い（修行10年）・左遣い（修行15年?）・主遣い（おもづかい）による人形遣いも、厳しい修行から生まれる崇高な芸術・知的財産であり（上演が始まるとすぐに人形遣いの存在が消える?）、まさに大阪発信の伝統芸能の極みといえるでしょう。知財のプロになるには最低10年と言われることがありますが、あまい（笑）。

今回の人形浄瑠璃（約25分）は、演目が天下泰平や五穀豊穡を祈る「三番叟（さんばそう）」で、吉田玉男（人間国宝）、豊竹藤太夫、鶴澤燕三ほかが出演されましたが、「藤太夫」（とうだゆう）さんが、「文楽の鬼」といわれた竹本住太夫師匠のお弟子さんという奇縁でした。



（左が豊竹藤太夫（竹本文字久太夫））



（会場内の白一色の内装と藤太夫さん）

能は、平安期に都市文化・宮廷文化として発展してきたと言われるので、これも関西発信の伝統芸能といえるでしょう。能と狂言（能楽）が観客に感情の緩急を感じさせるというのは実に高等な芸術ですね。今回の能楽の公演（約35分）は、演目が「羽衣（はごろも）」で、大槻文藏（人間国宝）、福王茂十郎ほか出演。

歌舞伎は1603年出雲大社の巫女の阿国（出雲の阿国）が創始者といわれており、京阪祇園四条駅上の四条大橋鴨川沿い東北に像が建っており（京都南座の斜め向かい）、やはり関西が発祥地。今回の歌舞伎・日本舞踊の公演（約35分）は、演目の豪華競阜月絵姿「藤娘抄（ふじむすめしょう）」は杵屋東成（人間国宝）ほか、「石橋（しゃっきょう）」は中村鴈治郎、片岡愛之助、市川中車ほか出演。歌舞伎の有名な舞踊に新たな演出を加え歌舞伎俳優と日本舞踊家がとても華やかな舞台を演じられました。

とにかく豪華としか言い様がなかったです。特に、弁護士知財ネットとご縁のある片岡愛之助さんと豊竹藤太夫さんが同時に登場されたのはとてもうれしかったです。



(片岡愛之助)



(左から、解説をされた中村壺太郎：人間国宝坂田藤十郎の孫で中村鴈治郎の息子、市川中車、片岡愛之助、中村鴈治郎、横山英幸大阪市長、吉村洋文大阪府知事)

ChatGPTによれば、「人形浄瑠璃（文楽）、能楽、歌舞伎はそれぞれ異なる魅力と歴史を持ちながら、日本の文化を代表する重要な無形文化遺産として世界的に認められています。これらの芸能は、単なるエンターテインメントとしてだけでなく、日本の歴史、文化、精神性を伝える貴重な財産と言えるでしょう。」と答えています（この回答は正解ですよ（笑））。

6 あとがき

国際万博に参加することは、分断や紛争が果てしなく続くこの尊い地球について、改めて「いのちを救う、いのちに力を与える、いのちをつなぐ」とはどういう意味をもつのか、それに通じる「いのり」とはどういうことか等を考えるよいきっかけとなり、多くの新たな発見となります。また知的財産の発展が科学技術の進歩だけではなく、それが人の未来にどのような希望を与えるのかを想像するとてもよい機会です。中島みゆきの「命の別名」や「命のリレー」にでてくる「い

のち」、「誕生」や「夜曲」などにでてくる「いのり」をも思い浮かべながら次稿にバトンタッチします。



(参考：フードコートにある「万博えびす神社」)